


生薬解説 217 せー12

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
せー12	せきしょうず 赤小豆	甘・酸・微寒 心・小腸	9～30g、煎服。外用には適量。
中医生薬解説			
 <p>アズキの成熟種子</p>		<p>利水消腫 浮腫、尿量減少に、鯉魚・桑白皮・茅根などを用いる「赤小豆鯉魚湯」「赤小豆湯」。</p> <p>清熱利湿・退黄 湿熱蘊結による黄疸に、桑白皮・連翹・麻黄などを用いる「麻黄連翹赤小豆湯」。</p> <p>解毒排膿 湿熱蘊結による腸癰（腸の化膿症）、痔出血などに、薏苡仁・当归などを用いる「赤小豆薏苡湯」「赤小豆当归散」。</p> <p>癰腫（皮膚化膿症）の初期の発赤、腫脹、疼痛に、単味の粉末を水か醋で調製して外用する。</p>	
		中医以外の生薬解説	
本草綱目 (時珍)		<p>氣味甘酸平、無毒、水腫を下し癰腫膿血を排す。</p> <p>「方剤決定のコツ」の注釈</p> <p>「水腫」は、水のよるむくみのこと。「癰腫」は、出来物で腫れること。</p>	
新古方薬囊		<p>味甘平、こわばりを緩め、水穀の行^{めぐり}を利することを主どる、故によく大小便を利すことをなす、之れ爪蒂散・麻黄連翹赤小豆湯等に入る所以なり。</p> <p>「方剤決定のコツ」の注釈</p> <p>赤小豆は、甘平によって脾胃を強めて水を下から大小便により去る。</p>	